



クイック リファレンス

Cisco MDS 9000 ファミリー コマンド クイック リファレンス

このクイック リファレンスカードには、Cisco MDS 9000 ファミリー スイッチの設定、管理、およびトラブルシューティングに使用する一般的なコマンドが記載されています。太字は、ユーザ入力を示します。斜体は、ユーザ定義の入力を示します。



(注) コマンドは、段階的な順序で表示されてはいません。

Cisco SAN-OS コマンドに関する詳細については、『Cisco MDS 9000 Family Command Reference』を参照してください。コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用した Cisco MDS 9000 ファミリー スイッチの設定に関する詳細については、『Cisco MDS 9000 Family Configuration Guide』を参照してください。

シスコの最新のマニュアルは、次の URL からアクセスしてください。
<http://www.cisco.com/techsupport>

ショートカット

コマンド またはキー	処理
?	使用できるコマンドやコマンドの引数を表示します。
Tab	コマンドの一部を入力するとそのコマンドを補完します。
Ctrl+Z	EXEC モードに戻ります。
do	後に続くコマンドをEXECモードから実行します。
exit	前回のプロンプト レベルへ戻ります。
no	後に続くコマンドを無効にします。
 (パイプ文字)	このコマンドに include および exclude 修飾子を使用すると、出力結果をフィルタリングします。
>	出力結果をファイルヘリダイレクトします。

プロンプトおよびモード

EXEC モード:

```
switch#
```

コンフィギュレーション モード:

```
switch(config)#
```

コンフィギュレーション サブモード:

```
switch(config-xxx)#
```

基本的なコンフィギュレーションと コンフィギュレーション管理

```
switch# setup
```

スイッチのセットアップ モードを開始します。

```
switch# show running-config
```

実行コンフィギュレーションを表示します。

```
switch# copy running-config startup-config
```

現在のコンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションに保存します。

```
switch# install all system bootflash:image  
kickstart bootflash:image
```

Cisco MDS 9000 ファミリー スイッチのすべてのモジュールをアップグレードします。通常、イメージは `bootflash:` 内にあります。

```
switch# clock set HH:MM:SS
```

スイッチのクロックを設定します。

```
switch# config term
```

コンフィギュレーション モードを開始します。

```
switch(config)# clock timezone  
switch(config)# summer-time timezone 1 starting  
weekday 5 ending weekday
```

タイムゾーンと夏時間を設定します。ここで、1 は夏時間の最初の週であり、5 は最後の週です。

```
switch(config)# ssh key range
```

SSH 鍵 (`dsa,rsa`, または `rsa1`) を生成します。有効範囲はビットで指定します。

```
switch(config)# ssh server enable
```

SSH サーバをイネーブルにします (デフォルトでは Telnet がイネーブルになっています)。

インターフェイス コンフィギュレーションコマンド

```
switch(config)# interface fc slot/port
```

スロットおよびポートごとにインターフェイスを指定します。

```
switch(config-if)# no shutdown
```

インターフェイスをイネーブルにします。

```
switch(config)# interface mgmt0  
switch(config-if)# no shutdown  
switch(config-if)# ip address address netmask
```

IP アドレスとネットワーク マスクを定義します。

```
switch(config-if)# switchport description  
description
```

インターフェイスの記述を定義します。記述は 80 文字以内で入力します。

```
switch(config)# ip default-gateway  
destination-ip-address
```

```
switch(config)# ip route destination-ip-address  
destination-prefix-mask  
nexthop-destination-ip-address
```

デフォルトゲートウェイとスタティックルートを定義します。

ユーザ コマンド

```
switch(config)# username name
```

ユーザ名を 32 文字以下で定義します。

```
switch(config)# username name password password  
expire YYYY-MM-DD
```

有効期限が設定されたユーザ アカウントおよびパスワードの作成または更新を行います。

```
switch(config)# role name name
```

ユーザに新しい役割を割り当てたり、既存の役割のプロファイルを変更します。役割名は 16 文字以内で入力します。

```
switch(config-role)# description description
```

新しく作成した役割に記述を追加します。記述は 64 文字以内で入力します。

```
switch# show role
```

スイッチに設定されているすべての役割を表示します。

ライセンス コマンド

ライセンスは、Cisco MDS 9000 ファミリーのすべてのスイッチで使用できます。対象機能のライセンスをインストールすると、指定されたプレミアム機能にアクセスできるようになります。

```
switch# show license host-id
```

ライセンス キー ファイルの入手に必要な、スイッチのシリアル番号を表示します。

```
switch# install license bootflash:license_file.lic
```

ライセンスをインストールします。

```
switch# show license
```

スイッチにインストールされているすべてのライセンスを表示します。

```
switch# copy licenses
```

ライセンス ファイルを .tar ファイルにバックアップします。

```
switch# show license usage license-name
```

特定のライセンスに対するアクティブな機能を表示します。

FCIP コマンド

```
switch# fcip enable
```

FCIP をイネーブルにします。

```
switch(config)# interface gigabitethernet slot/port
ギガビットイーサネット インターフェイスでインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
```

```
switch(config-if)# ip address address netmask
```

ギガビットイーサネット インターフェイスの IP アドレスと ネットワーク マスクを入力します。

```
switch(config)# fcip profile profile-id
```

接続内の両方のスイッチに対して FCIP 接続のプロファイルを作成します。プロファイルの ID は 1 ～ 255 です。

```
switch(config-profile)# ip address ip-address
```

ギガビットイーサネット インターフェイスのローカル IP アドレスにプロファイルを関連付けます。接続内の両方のスイッチに対して関連付けを行います。

```
switch(config)# interface fcip interface_number
```

指定の FCIP インターフェイスを、1 ～ 255 の範囲で設定します。

```
switch(config-if)# use-profile profile-id
```

FCIP インターフェイスにプロファイルを割り当てます。

```
switch(config-if)# peer-info ipaddr ip-address
```

FCIP インターフェイスにピア IP アドレス情報を割り当てます。スイッチ 2 の IP アドレス情報をスイッチ 1 に割り当て、スイッチ 1 の IP アドレス情報をスイッチ 2 に割り当てます。

VSAN コマンド

```
switch(config)# vsan database
switch(config-vsan-db)# vsan vsan-id
```

vsan-id の範囲を指定して VSAN を作成します。

```
switch(config-vsan-db)# vsan vsan-id name vsan-name
```

VSAN に記述を追加します。ここで、*vsan-id*は VSAN であり、*vsan-name* は VSAN の記述です。

```
switch(config-vsan-db)# vsan vsan-id interface type slot/port
```

VSAN にインターフェイスを追加します。ここで、*vsan-id* は VSAN 番号であり、*type* および *slot/port* はインターフェイスです。

```
switch(config-vsan-db)# vsan vsan-id interface type slot/port - port
```

指定した範囲のインターフェイスを同じライン カードから VSAN に追加します。

```
switch# show vsan
```

すべての VSAN を表示します。

```
switch# show vsan membership
```

VSAN 内のすべてのポートを表示します。

Fcdomain コマンド

```
switch(config)# fcdomain restart vsan vsan-id
```

データ トラフィックを中断せずに VSAN を再設定します。

```
switch(config)# fcdomain restart disruptive vsan vsan-id
```

データ トラフィックを中断して VSAN を再設定します。

```
switch (config)# fcdomain domain id preferred vsan vsan-id
```

優先させるドメイン ID を要求するように、指定 VSAN 内のスイッチを設定します。

```
switch(config)# fcdomain domain id static vsan vsan-id
```

指定した ID のみを受け取り、ドメイン ID が許可されない場合は VSAN内のローカルインターフェイスを隔離状態のように、指定 VSAN 内のスイッチを設定します。

show flogi database

指定した ID のみを受け取り、ドメイン ID が許可されない場合は VSAN内のローカルインターフェイスを隔離状態のように、指定 VSAN 内のスイッチを設定します。

```
switch# show flogi database
```

ファブリックにログインしているデバイスを表示します。エイリアスおよびゾーニングの pWWN をこのデータベースから取得します。

```
switch# show fcns database
```

VSAN ごとにデバイス名のサーバ登録情報を表示します。

```
switch(config)# fcalias name alias-name vsan vsan-id
```

デバイスのエイリアス マッピングを設定します。ここで、*alias-name* は VSAN 内のカノニカル名です。

```
switch(config-fcalias)# member pwwn hh:hh:hh...
```

pWWN *hh:hh:hh...* の *fcaliasname* へのマッピングを定義します。pWWN は FLOGI または FCNS データベースから読み込まれます。

```
switch(config)# zone name name vsan vsan-id
```

VSAN 内に名前付きゾーンを作成します。

```
switch(config-zone)# member fcalias name
```

名前付き FC エイリアスで参照されるノードをゾーンに追加します。

```
switch(config-zone)# member pwwn hh:hh:hh...
```

pWWN *hh:hh:hh...* で参照されるデバイスをゾーンに追加します。

```
switch(config)# zoneset name name vsan vsan-id
switch(config-zoneset)# member name
```

VSAN 内に名前付きゾーンセットを作成し、名前付きゾーンをゾーンセットに追加します。

```
switch(config)# zoneset distribute full vsan vsan-id
```

アクティブなゾーン セットだけではなく、VSAN のゾーン セットすべてを配信するようにスイッチを設定します。

```
switch# show fcalias
```

エイリアス マッピングを表示します。

```
switch# show zone
```

ゾーン マッピングを表示します。

```
switch# show zoneset
```

すべてのゾーン セットを表示します。

```
switch# show zoneset active
```

それぞれの VSAN に対してアクティブなゾーンセットを表示します。ログインしたデバイスや通信中のデバイスの情報を含みます。

Inter-VSAN Routing コマンド

```
switch(config)# ivr enable
switch(config-ivr-topology-db)#
autonomous-fabric-id fabric-id switch-wwn hh:hh:hh...
vsan-ranges 1-32 vsan-ids
```

IVR ルーティングをイネーブルにし、それぞれの VSAN が ファブリック内のどのスイッチに常駐するかを定義します。明示的な VSAN 定義を使用することも、範囲で指定することもできます。

```
switch(config)# ivr zone name name
switch(config-ivr-zone)# member pwwn hh:hh:hh... vsan vsan-id
```

名前付きの IVR ゾーンを作成します。メンバーを指定するには、一意の識別子（エイリアスや pWWN など）と VSAN を使用する必要があります。

```
switch(config)# ivr zoneset name name
switch(config-ivr-zoneset)# member name
```

IVR ゾーンセットを作成し、メンバー ゾーンを追加します。

```
switch(config)# ivr zoneset activate name name
```

IVR ゾーンセットを有効にし、ファブリック内のゾーンをイネーブルにします。

```
switch# show ivr vsan-topology
switch# show ivr zoneset active
switch# show ivr tech-support
```

CFS コマンド

Cisco Fabric Services（CFS）は、ファブリック内の設定を自動的に同期させるための共通のインフラストラクチャを提供します。CFS は、さまざまな Cisco SAN-OS アプリケーションで使用されています。NTP CFS アプリケーションをサポートするコマンドの例を、以下に示します。

```
switch# config term
switch(config)# ntp distribute
```

NTP 設定のファブリックへの配信をイネーブルにします。CFSのおかげで、この処理を実行するのはアプリケーションの存続期間中に 1 度だけで済みます。

```
switch(config)# ntp server hostname[ip- address]
```

NTP サーバでアソシエーションを形成します。

```
switch(config)# ntp commit
```

アクティブな NTP 設定に対する変更を確定します。

```
switch(config)# ntp abort
```

提案された変更を廃棄します。

```
switch(config)# show ntp pending-diff
```

アクティブな NTP 設定と、**ntp commit** コマンドを実行した場合に有効になる変更案との差異を表示します。

```
switch# show cfs application
```

すべてのアプリケーションの CFS 情報を表示します。

```
switch# show cfs application name name
```

指定されたアプリケーションの CFS 情報を表示します。

トラブルシューティング コマンド

```
switch# fcping fcid fcid vsan vsan-id
switch# fcping pwwn hh:hh:hh... vsan vsan-id
```

ファイバ チャネル フレーム経由でエコーを送信し、宛先デバイスがログインされており、通信中であるかどうかを特定します。

```
switch# fctrace fcid fcid vsan vsan-id
```

N ポートへのルートをトレースします。

```
switch(config)# fcanalyzer local brief
limit-captured-frames 0
```

コンソール セッションに対する制御フレームをキャプチャします。

```
switch# show tech-support details
```

次のコマンドを実行します。

```
show version、show environment、show module、show run、
show hardware、show interface、show accounting log、
show process、show license、および show system health。
switch# tac-pac
```

showtechdetails コマンドのgzipファイル(**show_tech_out.gz**)を揮発性ファイル システム上に作成します。次に、このファイルは揮発性メモリに保存されます。

```
switch# show version
switch# show interface brief
switch# show interface fc slot/port trunk vsan
switch# show module
switch# show fspf internal route vsan
switch# show topology vsan vsan-id
switch# show device-alias
switch# show fcalias
switch# show fcroute
switch# show fspf internal route vsan vsan-id
switch# show logging logfile
switch# show logging last lines
```